

2017年1月7日
(於：神戸芸術センター)

SLiT-J ユーザーコミュニティ発足式挨拶

九州大学先導物質化学研究所所長
日本学術会議 23 期化学委員会委員長
高原 淳

皆さん、明けましておめでとうございます。

ただいまご紹介に預かりました九州大学先導物質化学研究所の所長を仰せつかっております高原でございます。この度は、東北放射光施設計画 SLiT-J ユーザーコミュニティ発足、誠におめでとうございます。

私はただ今、ご紹介いただきましたように、第 23 期の日本学術会議の化学委員会の委員長、それから、高分子化学分科会の委員長、ならびに結晶学(IUCr)分科会の委員長を務めております。日本学術会議では 2014 年、2017 年と、次世代光源を大型研究計画マスタープランにご提案いただき、関連学術コミュニティからも多くの支持をいただいております。2017 年に関しては、これから提言が報告されるということになっております。

私は化学ですので、化学の立場から SLiT-J に大変大きな期待を寄せております。特に SLiT-J でご提案されておられます光源性能は軟 X 線領域まで高い輝度を備えており、化学でも、特に元素に敏感な波長領域での分光、散乱が測定できるということで様々な元素を駆使した日本の得意とする「ものづくり」には、大変大きな力になるものと確信しております。

それから、私は昨年まで高分子学会の会長を務めておりました。高分子学会は 1 万人以上の会員を有しておりまして、その半数以上が企業の会員でございます。企業の会員の数がアカデミアより多いという非常に日本の中でも特徴のある学会でございますけれども、高分子学会の会員の企業には放射光ユーザー企業が非常に多くおられて、産学連携も積極的に推進しておられます。その典型的な例は SPring-8 に BL 03XU, フロンティアソフトマタービームラインでございますけれども、そこで積極的に産学連携をやりまして、いくつかの製品開発につながっていることは色々な形で公表されております。

今回の SLiT-J での学術と産業のコウリション・コンセプトは、産学連携の概念を 1 つ上のレベルへ発展させるものと考えております。効率よく基礎研究結果を共有しつつ、コウリションによる研究開発を行うという提案は、高分子学会、関連の学会等でも注目するところでございます。それから、高分子というのは重い元素が全然ない材料ということで、軽元素を中心とした高分子化学工学の分野では、軟 X 線領域でユーザーフレンドリーな次世代光源というのは、大いに期待しているところであります。

また、2015 年の春には次世代放射光施設検討ワーキンググループで報告書を出しておりますけれども、今後のわが国の放射光利用環境には、あらゆる波長領域における高輝度安定コヒーレント光源が必要でございます。ただし、これを単一の施設で実現する事は非常に難しく、そのため、各放射光施設の特徴を生かした機能分散型のアライアンスというもの形成しまして、あらゆる光源性能、利用者層、利用形態をカバーすることが重要であ

りまして、今回の SLiT-J の提案というものは東北地方の新しい施設として、これからアライアンスの中でも重要な役割を果たしていくと考えております。

最後に、今後ともこのユーザーコミュニティに御参加の皆様へ東北放射光施設計画実現のためのご支援を賜ることをお願いいたしまして、学術の分野を代表致しましてのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございます。